発達障害コース,「肢体不自由児の教育課程と指導法」

学生の主体的な学びを引き出す授業づくり２

特別支援教育講座・樫木暢子

１．授業の概要

1-1　授業概要

本授業は特別支援学校教員免許状取得に必要な科目であり、肢体不自由児の教育に関する制度や教育課程について概説できること、肢体不自由児の子に応じた指導を立案できることを目的とした。そのため、①学習指導要領及び解説の肢体不自由児に関する記述の理解、②肢体不自由児の障害特性を理解した上での具体的な指導方法の理解と習得、③指導案の立案と模擬授業による実践力の育成、④肢体不自由児教育に関わる現代の課題の理解を各授業におけるねらいとした。授業で取り扱った内容は以下のとおりである。

・肢体不自由教育の概説
・肢体不自由の概念と歴史（肢体不自由児施設と教育に関するビデオ）
・特別支援学校（肢体不自由）の教育課程とその編成
・教育課程の編成と自立活動
・自立活動の内容
・教科指導における視覚支援
・訪問教育、院内学級
・身体の動きへの指導、支援（4 号館 1 階プレイセラピールームでの実技）
・コミュニケーションの基本と AAC の活用（教材紹介）
・障害の重い子どもの健康指導
・摂食指導の実技演習
・医療的ケアの歴史と現状
・肢体不自由児のモデルケースに関する学習指導案立案と模擬授業（KJ 法による討議）

1-2　授業時間外学習促進の取り組み

今年度は表 1 の課題を課した。

２．授業評価方法

2-1　アンケート

選択式及び記述式のアンケートを行った。アンケートは受講生の成績に一切影響させず、授業に対する自由な回答を保障するため、最終試験終了後、無記名で行い、その場で回収した。受講生は学部学生 20 名（2 回生 18 名、3 回生 2 名）、大学院特別支援学校教育専修 1 名（現職教員）で、合計 21 名で回答率は 100%だった。

2-2　アンケート結果と考察

授業改善の成果を図るため、昨年度のアンケート結果との比較を行った。表 2 に授業内容でもっと詳しく知りたかった項目を示した。なお、昨年度とは受講生数が異なること、今年度は 3 回生及び大学院生の人数が少なかったことを考慮し、総数に対する割合を比較した。授業づくりや授業改善については高い水準を保っている一方で、介助方法、摂食指導、健康管理、医療的ケアなど実技演習への知的欲求が高かった。

表 3 に難しかった授業内容を示した。2 回生がほとんどであったことから初めて指導案

表 1　授業時間外学習の課題

課題	フィードバック
特別支援学校学習指導要領、解説総則編、解説自立活動編の 3 冊について、「肢体不自由」に関する項目に印を付ける	授業で相互確認のグループワーク
模擬授業の指導案作成	模擬授業時にフィードバック
模擬授業に必要な教材・教具等の作成	模擬授業時に写真を撮影し、その場で投影し、教材解釈、改善点等のコメント
他者の指導案の良い点、改善点に関するミニレポート作成	授業検討で使用
模擬授業後の修正指導案作成	返却なし
上記の課題が無い時に適宜ワークシート	評価及びコメントを記入し返却

を書いた者が多く、指導案や模擬授業への取り組みが重要であり、その基礎となる実技的な内容への興味関心が高いことが推測される。

これらの学習内容に対して、表４に受講生が考える授業方法の改善点を示した。紙面の関係で総回答数が１以下の項目は割愛している。昨年度の欠陥と比較すると概ね改善で来ていると言えるが、依然、スライドの転換、プリント作りには課題が残っており、１回の授業で取り扱う内容や量について、学生の状況に応じて修正を加えていくことが望ましいと言える。

後期 DP 対応学生認識調査の結果から、表５に授業外学習時間の２年間の比較、表６に自発的学習行動の２年間の比較を示した。授業外学習の平均時間が課題、自発的学習共に減少していた。また、自発的学習行動も読書、活動ともに減少していた。授業履科目数と授業外学習時間にはある程度の関連があると推測される。昨年度は３回生も多く受講しており、本授業の授業外学習に時間をかけられた可能性は否めない。一方、課題量は変わっていないことから、学生が課題に十分に取り組む時間が取れず、指導案作成や授業改善が難しいと感じた可能性もある。

記述回答では昨年同様、実技・体験への要望が出ていた。基礎理論の講義や模擬授業の時間確保を行うと、今以上に実技・体験時間を増やすことは難しい。事前課題の提示などを工夫していきたい。

３．授業の改善

昨年度からの改善点としては、学習指導案の実例を配布した。教科書は講義の際に該当ページを示すとともに、レポート課題を設定し、指導方法への考察ができるようにした。学習指導要領及び解説編は、障害別の記述に留意して読む方法を提示した。

授業検討ではタブレット端末を用いて、模擬授業を振り返り、より具体的な指導助言を行えるようにした。

４．総括

本授業では授業時間外学習を多用し、授業時間内では模擬授業や体験的な内容を取り入れ、学生の主体的な学びを引き出すことを目指した。授業時間外学習は履修科目数や教育実習経験者か否かで、時間数や深まりが変わってくると考える。学年の既習状況や実習経験、興味関心などに着目し、受講生の実態に応じた臨機応変な授業展開も一考の価値があるのではないだろうか。

なお、この授業は「ireport」で紹介されている。

表２　もっと詳しく知りたい内容（複数回答）（%）

	歴史	教育課程	自立活動	授業づくり、改善	実態	介助方法	コミュニケーション	摂食指導	健康管理	医療的ケア
2014 年度	7.4	3.7	33.3	63.0	44.4	37.0	40.7	18.5	18.5	22.2
2015 年度	0	4.8	28.6	66.7	47.6	66.7	42.9	28.6	33.3	38.1

表３　難しかった授業内容（複数回答）（%）

	歴史	教育課程	自立活動	指導案	模擬授業	授業検討	実態	介助方法	コミュニケーション	摂食指導	健康管理	医療的ケア
2014 年度	7.4	3.7	11.1	40.7	48.1	7.4	3.7	25.9	11.1	3.7	11.1	22.2
2015 年度	9.5	9.5	14.3	90.5	81.0	19.0	19.0	47.6	9.5	9.5	14.3	28.6

表４　授業方法の改善点（複数回答）（%）

	話す速さ	スライドの転換	教科書の使用	学習指導要領の使用	授業の時間配分	模擬授業の時間配分	プリントの作り方	指導案の配布方法	提出方法	時間外学習の内容	時間外学習の量
2014 年度	11.1	25.9	18.5	11.1	3.7	11.1	11.1	11.1	11.1	7.4	11.1
2015 年度	0	14.3	4.8	0.0	4.8	14.3	14.3	4.8	4.8	4.8	4.8

表５　授業外学習時間（時間）

	課題	自発
2014 年度	1.22	0.74
2015 年度	0.92	0.64

表６　自発的学習行動

	読書（冊）	活動（件）
2014 年度	1.48	0.61
2015 年度	1.00	0.38